

◆ 主な研究課題・事業 ◆

## 課題1 さくらんぼのウメシロカイガラムシに対する効率的な防除技術の確立

さくらんぼの枝幹性害虫であるウメシロカイガラムシは本県では5月と8月に発生しますが、第2世代の発生時期は越冬世代に比べ長期にわたり年次間差も大きいことから生産現場では防除に苦慮しています。

そこで、ウメシロカイガラムシの第2世代の発生時期及び防除適期を明らかにするとともに、近年、ハダニ類の新たな防除薬剤として利用されている気門封鎖剤の活用を含めた、効率的・効果的な防除法について検討しています。



ウメシロカイガラムシ雌成虫

## 課題2 ハウスさくらんぼ病害虫の総合防除体系の確立

ハウスさくらんぼ栽培は、雨よけ栽培と比較し生育期間が長く、病害虫の発生消長が異なるため、防除の判断が難しく、褐色せん孔病の多発により黄変落葉の被害が発生しています。

本試験では、ハウスさくらんぼ栽培における褐色せん孔病の発生実態から防除適期を明らかにするとともに、効率的・効果的な防除体系を検討しています。



オウトウ褐色せん孔病の被害葉

## 課題3 さくらんぼオリジナル新品種「山形C12号」の大玉生産に向けた肥培管理技術の確立

本県オリジナルさくらんぼ新品種「山形C12号」(やまがた紅王)は従来品種よりも果実肥大に優れることが特徴で、市場や生産者から大きな期待がよせられています。

そこで、大玉品種という特性を十分に発揮できるように、4Lサイズ以上の果実割合を高めるための肥培管理として、春施肥の効果を検討しています。



春施肥の圃場試験

## 課題4 ぶどう園における剪定枝由来バイオ炭活用技術の開発

果樹園地では毎年剪定枝が発生し、その処分が課題となっています。果樹剪定枝を炭化した「バイオ炭」を園地に施用することによって、温室効果ガス削減の効果が期待されています。

本試験では、剪定枝の効率的な炭化方法を探索するとともに、ぶどう園への剪定枝由来バイオ炭の連年施用が生育、果実品質、土壌環境に及ぼす影響について検討しています。



ぶどう剪定枝からのバイオ炭の作製